

あなたと 青山学院



地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクール・モットー

30万人の卒業生と母校をつなぐ「絆」

January 2013 No.11

今号の聖句

わたしは恵みの時にあなたに答え／救いの日にあなたを助けた。
In a time of favor I have answered you, on a day of salvation I have helped you;

イザヤ書 第49章8節

新春鼎談



左から、山北院長、安藤理事長、細田校友会会長

新しい青山学院の始まりとなる 2013年。校友会と連携し、 原点回帰により、 青山学院のさらなる発展をめざす

校友会設立120周年を迎える2013年。今春から大学では人文・社会科学系学部のすべての学生が青山キャンパスで学ぶことになるなど、青山学院の新たな歴史の1ページが始まる年でもあります。そこで、新春の箱根駅伝の興奮冷めやらぬ中、山北宣久院長、安藤孝四郎理事長、細田治校友会会長に青山学院と校友会の今後の展望を語り合っていました。

2013年の抱負と今後の展望

安藤：青山学院は、建学の精神を堅持しながら本学院らしい教育を行い、信頼される人物を世の中に送り出してきました。これは今後も常に変わらぬ基本です。そして、2013年度は何といっても就学キャンパスの新しい形ができることに尽きると思います。厚木の20年、相模原の10年を考えると、まさに30年以上、大学は一部の学部を除いて1年生から4年生までが1つのキャンパスで学ぶということがありませんでした。その意味で、新しい青山学院が始まる非常に大きな節目の年になると思います。また、相模原キャンパスについても、新学部の設置など、さらなる発展への計画を検討中であり、両キャンパスともに新たなキックオフの1年となります。

山北：7,000名の学生が青山キャンパスに移動すれば、それだけ対角線が増えます。そうなれば当然、活発さが学院全体に末広がりになり、活発さが学院全体に末広がりになり、「何かにぎやかになったな。迫力があるな」となるでしょう。校友会の方々もいろいろな思いを凝らされていたことが実現する年であり、これからどのような実が結ばれるかを楽しみにしたいと思います。

細田：本当に待ち望ましいことですね。

山北：もちろん、人文・社会科学系7学部の全学生が青山キャンパスで学ぶことになるにあたり、本当に大丈夫なのかという心配があるのも事実です。しかし、楽しみ、喜び、あるいは感謝でそれを乗り越えていくのが青山学院らしさだと思います。そうでなくとも、暗いことには事欠かない世の中です。その中で、なお創造的な業が希望のうちに語られ、展開されるのは感謝以外の何物でもありません。少々、楽天的すぎるのではないかといわれるかもしれませんが、楽天は「天を楽しむ」と書きます。互いに信頼感を持って切磋琢磨しながら全体のためにというスタンスで、希望の道を歩んでいきたいと思っています。

細田：校友会にとって、2013年のメインテーマは校友会設立120周年記念事業を成功させることです。その1つとして現在、青山学院の歴史、伝統、楽しさを満載したDVDを製作中で、完成の暁には学院に寄贈させていただきます。このDVDを楽しみながら学院のすばらしさを学び、全学生に校歌やカレッジソングを覚えていただきたいと強く願っています。

安藤：母校愛を醸成する一助となるDVDをとて楽しみにしています。

細田：もう1つ、現校友会執行部が1年半前に発表した活動基本方針の進捗状況の確認も、今年の大テーマです。校友会事業は継続性を持って次の期へと受け継がれていくものであり、任期満了までの半年間は、これまでに実施できたことや道半ばにあること、まだ手がついていないことを明確にしていかなければなりません。さらに、その中でも特に重要な項目でまだ完成していない部分については、ピッチを上げて取り組んでいきたいと考えています。

学院と校友会の連携体制

細田：校友会の目的は、「校友間の親睦を図り、以て母校の発展に寄与することにある」と規約にも書かれています。少子化で学校経営の難しい現代、校友会の母校への貢献の1つが経済的支援であり、2012年度は活動方針のトップに「校友の青山学院維持協力会への入会促進」を掲げました。維持協力会は青山学院関係者による学院経済基盤確立を目的とし、20年ほど前にスタートした寄付金システムです。しかし、校友30万人のうち、この制度に加入しているのは約3,000名で、昨年、ご入金いただいたのはわずか780名でした。年に1万円、一日にすればコーヒー1杯分の金額であり、今後、より多くの校友にご協力をいただきたいと思います。維持協力会への入会は単にお金の問題ではありません

ん。寄付するときに母校のこと、後輩のことを考える瞬間が極めて大切だと考えています。

安藤：校友の皆さまには、母校の発展を願って、いろいろとご協力いただき、感謝申し上げます。

細田：校友会には、財政基盤の確立を支援するほかに、母校に対して提言をしていくという使命もあると考えています。30万人の校友の中には社会的な研さんを経て、たいへんな実力を持つ方がたくさんおられます。こうした方々が時宜に触れて母校に提言をしていく。場合によっては、苦言を呈することも時には必要ではないかと思えます。今こそ、真の母校愛とは何かを考える時ではないでしょうか。

山北：母校愛とは、人生の原点の1つが青山学院にあるという、良き思い出のうちに原点回帰することではないでしょうか。その原点回帰において、友情なり、信頼なりで培われた人は本当に幸いです。

安藤：一般に母校の発展といいますが、学校としては社会に有為の人材を輩出することこそが母校の発展を意味します。昨年、本多庸一先生の召天100年という大きな節目を迎え、たくさんの記念行事が行われました。「Manを出さしめよ」という、本多先生が打ち立てられた青山学院の使命に応える教育をしていくことが、皆さまのご支援にも応えることになると思っています。

青学アイデンティティ

安藤：グローバル化が進む現代、自律的な個性の確立が求められていますが、青学アイデンティティの根幹になるのは、信頼です。そのためには、今日まで青山学院を築いてくださった先人のご努力を大切に、現代における新しい青学の信頼をどのようにつくるかがいよいよ大事なと考えます。例えば、箱根駅伝で本学の選手の走りを

(2面に続く)

CONTENTS

学校法人	新春鼎談	1
学校法人	新春鼎談・今号の聖句	2
学校法人	本多庸一先生 召天100周年をふりかえって	3
学校法人	青学ニュース	4
校友会	支部ニュース	6
校友会	校友会本部	7
校友会	アイビーグループニュース	8

校友会	部会・同窓会ニュース	10
校友会	あのことろ・そして・いま／元プロ野球選手 小久保 裕紀さん	12
学校法人	Useful Information	13
学校法人	青学探訪「模型に遺る3つの校舎 その③ 一勝田館(勝田ホール)ー」	14
学校法人	青山学院からのお知らせとお願い	15
校友会	校友会ニュース／みんなで走った箱根駅伝	16